「高齢ドライバーの認知機能検査」

星ヶ丘医療センターもの忘れ外来 医師 森 敏

令和2年度公開動画「認知症が心配なもの忘れ」では、認知症の初期症状が疑われる「病的なもの忘れ」の特徴、「すっかり忘れていること、ヒントを出されて思い出せないこと」について解説しました。

今回は、「病的なもの忘れ」を確認する「記憶のテスト」について解説します。なかでも、 軽度認知障害をとらえる「高齢ドライバーの認知機能検査」について詳しく解説します。



「病的なもの忘れ」を確認するテスト

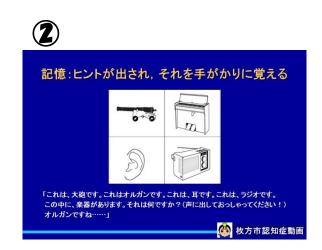
「さくら」「ねこ」「電車」を記憶する。

- 1. Mini-Mental State Examination (MMSE)
 - →遅延ヒントなし再生
- 2. 改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)
- →遅延ヒントなし再生/ヒント再生
- 3. 高齢ドライバーの認知機能検査(FCSRT改変) (即時ヒント再生)→遅延ヒントなし再生/ヒント再生



【「病的なもの忘れ」を確認するテスト】

MMSEでは「ヒントなし再生」のみ、長谷川式では「ヒントなし再生」に加えて「ヒント再生」を実施します。高齢ドライバーの認知機能検査では、「ヒント再生」で使用されるヒントを手がかりに覚え込み、「ヒントなし再生」と「ヒント再生」の両者で評価します。



【記憶: ヒントが出され, それを手がかり に覚える】

後ほど行われる「手がかり再生」のヒントが 覚え込む(記銘)段階で予め提示され、そのヒ ントと関連づけて記憶します。

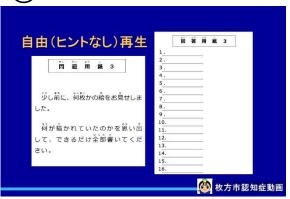




【干渉課題】

覚え込んだ後、一度注意を別のことにそらす ために、記憶に関係しない課題が課されます。 本検査では、「1」と「4」に斜線を引いて いきます。

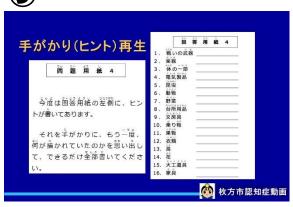




【自由(ヒントなし)再生】

先ほど覚えた 16 の名詞を, まずは, ヒントなしでできる限りたくさん思い出し, それを書いていきます。





【手がかり(ヒント)再生】

次に, カテゴリーのヒントを見ながら 16 の名 詞を思い出し, それを書いていきます。





【出題されるイラストは4セットのみ】

出題されるセットは、4 セットのみです。各セットは 16 のイラストで構成され、個々のイラストは、同一のカテゴリー順に並んでいます。

75歳以上の高齢ドライバーに課される認知機能検査は、運転免許証更新時のみならず、一定の交通違反をした場合にも受けなければなりません。そこで、運転ドライバーにとっては、身近な検査といえます。本検査を受ける方は、ぜひ参考になさってください。

お問い合わせ先 枚方市医師会

枚方市 健康福祉総合相談担当

電話: 072-848-1600 FAX: 072-848-1601 電話: 072-841-1401 FAX: 072-841-5711